

日本性科学会雑誌

JAPANESE JOURNAL OF SEXOLOGY

VOL.34 NO.2 Sep. 2016

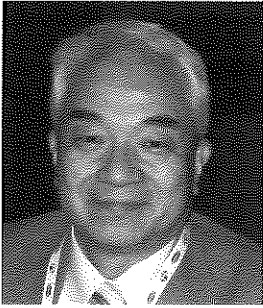
第36回 日本性科学会学術集会 「地域に根ざした性の健康を考える」

会長講演	座長 大川玲子
泌尿器科医として性科学へ関与できること	天野俊康
特別講演	座長 天野俊康
性科学から Men's Health をひも解く	永井 敦
シンポジウムⅠ 地域活動での思春期教育再考	座長 高波 真佐治
泌尿器科の立場から	今井 伸
産婦人科の立場から	高橋幸子
養護教諭・性教育研究の立場から	白澤章子
助産師の立場から	北原光子
シンポジウムⅡ 地域に根ざした男性学（アンドロロジー）の診断と治療	
	座長 永尾光一
勃起障害（ED）・射精障害（EjD）	佐々木春明・他
男性不妊症	日比初紀
加齢男性性腺機能低下（LOH）症候群	辻村 晃
性同一性障害	中塚幹也
パネルディスカッション ピアカウンセラーが語る性教育が男性に与える変化	
	座長：北村邦夫、渡邊智子
パネリスト	朝岡 徹、馬場創太郎、山田和輝
一般演題	

日本性科学会
Japan Society of Sexual Science

主催 日本性科学会 (JSSS)

JAPAN SOCIETY OF SEXUAL SCIENCE



会長挨拶

会長 天野俊康

長野赤十字病院第一泌尿器科 部長

この度、第36回日本性科学会学術集会を、長野赤十字病院泌尿器科にてお世話させていただくことになり、大変光栄に存じます。

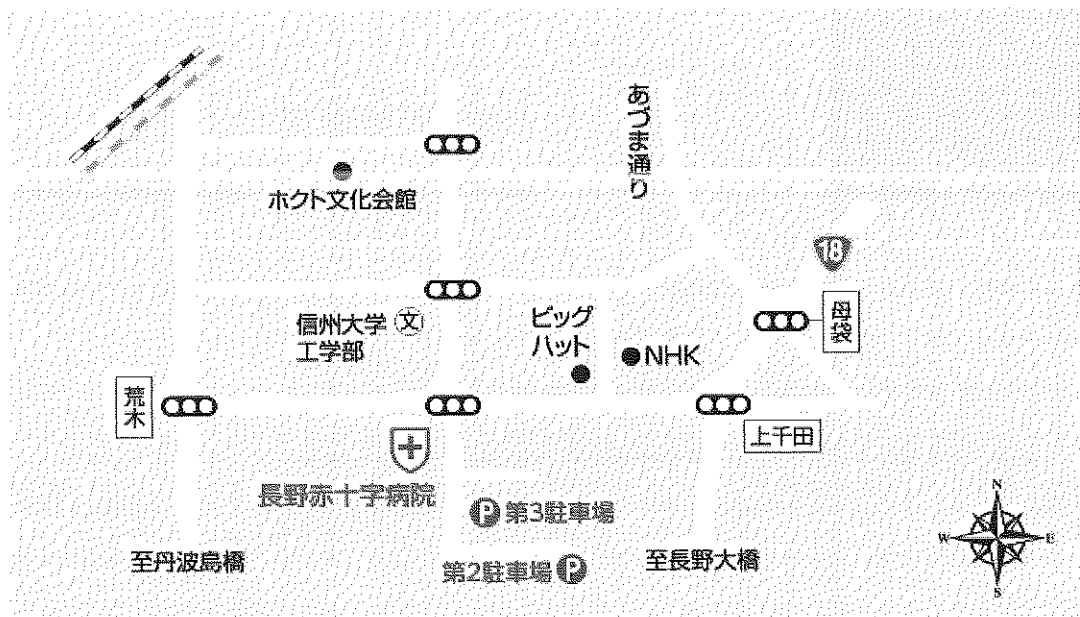
日本性科学会学術集会会長の順番が泌尿器科領域からということで自分のところへ打診がありましたが、一般病院の勤務医の立場からすると、マンパワー的にも、経験においても、費用的な面においても、とても無理な状況でしたが、諸般の事情からお引き受けすることになりました。とはいっても、これまでの本学術集会や他諸学会のような完璧な準備やホスピタリティにはほど遠い学術集会となりそうで、参加される皆様にはご迷惑・物足りなさを感じさせてしまうことになるかと危惧しておりますが、どうぞご容赦いただけますよう予めお願い申し上げます。

このような状況ではございますが、善光寺さんのお膝元・長野市という地方都市にて開催するという事で、本学術集会のテーマは、「地域に根ざした性の健康を考える」といたしました。

講演内容に関しましては、特別講演は川崎医科大学泌尿器科教授の永井敦先生に「性科学から Men's Health をひも解く」としてご講演いただき、会長講演、シンポジウムⅠ「地域活動での思春期教育再考」、シンポジウムⅡ「地域に根ざした男性学（アンドロロジー）の診断と治療」、パネルディスカッション「ピアカンセラーが語る性教育が男性に与える変化」、一般演題という構成です。男性あるいは泌尿器科的な目線が中心となっており、偏った編成になった感が強いのですが、中心地方都市の泌尿器科勤務医ということで、身の丈に合わせた内容ということでご理解いただけると幸いです。

学術集会の準備、当日の運営など、数々の不手際や至らぬ点が多々あると存じますが、信都・長野市で、皆様にお会いできることを楽しみにしております。

交通案内



病院所在地

〒380-8582 長野県長野市若里5丁目22番1号

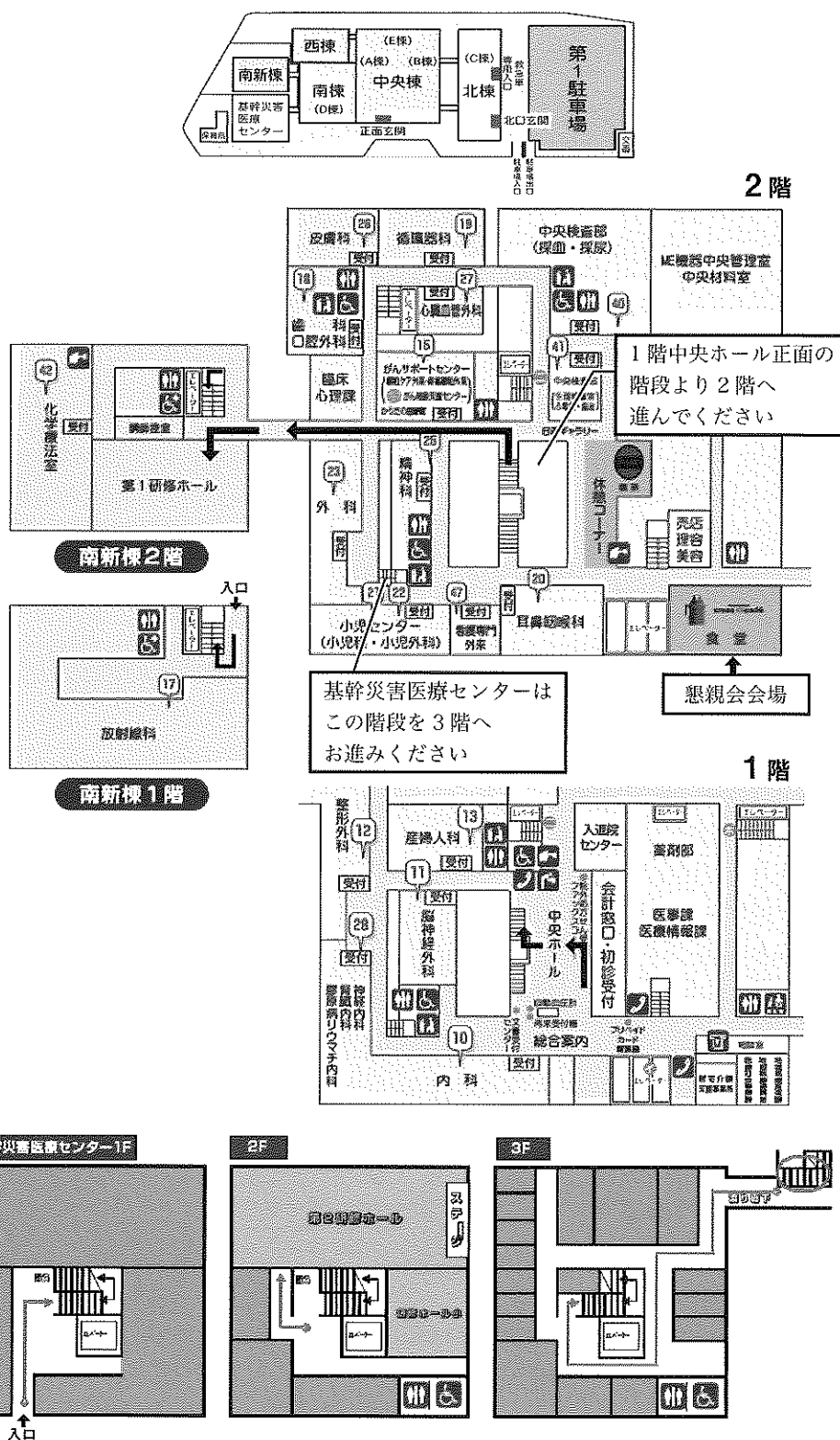
TEL.026-226-4131 (代表) FAX.026-228-8439

交通案内・自動車等

JR 長野駅東口より約1.8km バス7分、タクシー5分、徒歩30分

※日赤病院前から長野駅東口の路線バスがあります

会場案内



お知らせ

■参加者の皆様へ

1. 参加受付

参加の受付は開催当日に行います。

(1) 日時：2016年9月17日(土) 12:30～第17回性科学セミナー

9月18日(日) 8:00～第36回日本性科学学術集会

(2) 場所：長野赤十字病院 ・南新棟2階 第1研修ホール

・基幹災害医療センター2階 第2研修ホール

〒380-8582 長野市若里五丁目22番1号

(3) 参加費：

① 9月17日(土) 第17回性科学セミナー 3,000円(学生1,000円)

② 9月18日(日) 第36回日本性科学学術集会 5,000円(学生1,000円)

③ ①、②両日参加の場合 7,000円(学生2,000円)

※現金決済のみの対応となります。

※学生の方は学生証をご提示ください。

※参加証(ネームカード)は会期中の会場内では必ずお付けください。

(4) 抄録集：1,500円 会員の方は、事前に送付されます抄録集をご持参ください。

(5) 日本産科婦人科学会専門医研修出席証明

① 9月17日(土) 第17回性科学セミナー

当セミナーは「日本専門医機構」学術集会参加単位1単位、「日本産科婦人科学会」専門医制度研修会10単位、「日本産婦人科医会」研修参加証の交付対象となります。

e 医学会カードによる受付をしますので、ご持参下さい。

② 9月18日(日) 第36回日本性科学学術集会

当学術集会は「日本専門医機構」学術集会参加単位2単位、「日本産科婦人科学会」専門医制度研修会10単位、「日本産婦人科医会」研修参加証の交付対象となります。

e 医学会カードによる受付をしますので、ご持参下さい。

2. 懇親会

第17回性科学セミナーと第36回日本性科学学術集会の合同懇親会を下記のとおり予定しております。

(1) 日時：2016年9月17日(土) 17:30～19:30

(2) 場所：長野赤十字病院 2階 クロスカフェ

(3) 参加費：3,000円

※参加のお申し込みは、学会参加登録時に受付にてお願いいたします。

※場所は当冊子内の地図をご確認ください。

3. 理事会

(1) 日時：2016年9月18日(日) 12:00～13:00

(2) 場所：長野赤十字病院 基幹災害医療センター2階 第2研修ホール

4. 駐車場

当院の駐車場をご利用ください。駐車券に関しては、受付にてお知らせください。

5. 9月18日(日) 昼食の弁当

準備の都合がございますので、9月12日(月)までに、学会事務局まで、メールにてご連絡ください。弁当代¥1,000。

メールアドレス：jsss36@nagano-med.jrc.or.jp

学会会場(南新棟2F、第1研修ホール)にてお召し上がりください。

6. 撮影について

会場内での録音、写真撮影、ビデオ撮影などをご遠慮ください。

■シンポジウム・パネルディスカッション座長の方へ

1. 講演開始の1時間前までに、受付をおすませください。
2. 所定の時刻に、「打ち合わせ会場」（基幹災害センター2階）にお集まりいただき、座長および演者の方々と事前の打ち合わせをお願いいたします。
3. 講演開始の10分前までに会場にお越しいただき、進行係にお申し出ください。
4. 進行は時間厳守をお願いいたします。
5. 演者の方々のご略歴は抄録集に掲載しております。事前の打ち合わせでもご確認の程、よろしくお願い申し上げます。

■一般演題の座長の方へ

1. 講演開始の30分前までに、受付をおすませください。
2. 講演開始の10分前までに会場にお越しいただき、次期座長席にお着きください。
3. 進行は時間厳守をお願いいたします。

■シンポジウム・パネルディスカッション演者の方へ

1. 講演開始の1時間前までに、受付をおすませください。
2. 所定の時刻に、「打ち合わせ会場」（基幹災害センター2階）にお集まりいただき、座長および演者の方々と事前の打ち合わせをお願いいたします。
3. 発表用のデータは、30分前までに発表会場の「PC受付」にお持ちください。
なお、その場での修正はできませんのでご了承ください。
4. 発表はPC【Power Point】によるプレゼンテーションのみとさせていただきます。
5. 発表データに関しましては「発表データ作成について」をご確認ください。

■一般講演演者の方へ

1. 講演開始の30分前までに、受付をおすませください。
2. 発表用のデータは、30分前までに発表会場の「PC受付」にお持ちください。
なお、その場での修正はできませんのでご了承ください。
3. 発表はPC【Power Point】によるプレゼンテーションのみとさせていただきます。
4. 発表時間6分、質疑応答2分です。
5. 発表データに関しましては「発表データ作成について」をご確認ください。

■発表データ作成について

1. 会場にはWindows 7/Microsoft Power Point 2013がインストールされたパソコンを用意いたします。
2. 発表データはMicrosoft Power Point 2007以上のバージョンで作成・編集をお願いいたします。

3. 文字化けを防ぐため、フォントは Windows 7 に標準搭載されているものをご使用ください。(個人でインストールされたフォントには対応できません)
4. 動画ファイルを使用する場合はあらかじめ事務局へご相談下さい。
5. 音声出力が必要な方は、あらかじめ事務局までお申し出ください。
6. Machintosh でのプレゼンテーションをご希望の場合は PC 本体(ノートパソコン)と AC アダプタ、変換コネクタをお持ち下さい。
7. 発表データはメディア (USB メモリー、CD-R) でお持ち下さい。なお、作成して頂いたデータには「セッション名_筆頭演者名」の順でファイル名をつけて保存して下さい。講演終了後、お預かりしたデータは事務局にて責任を持って破棄いたします。バックアップとして予備のデータをお持ちいただくことをお勧めします。
8. 発表当日、演台には PC、レーザーポインターを準備致します。操作は発表者ご自身でお願い致します。

■発表される方へ

発表に際しては、必ず、倫理的配慮をお願いします。COI の有無に関して、パワーポイント上で開示をお願い致します。

■質問される方へ

1. 質問あるいは意見のある方は、座長からの指名を受けて下さい。
2. ご所属とお名前を述べてからご発言ください。
3. 時間の節約のため、あらかじめ、できるだけマイクの近くまでお越しください。

お問い合わせ

第 36 回日本性科学会事務局

〒380-8582 長野県長野市若里 5 丁目 22 番 1 号

長野赤十字病院泌尿器科

TEL:026-226-4131 FAX:026-224-1065

E-mail: jsss36@nagano-med.jrc.or.jp

日 程 表 9月17(土) 第17回日本性科学会連合性科学セミナー

時 間	南新棟	基幹災害医療センター	病院
	2F 第1研修ホール	2F 第2研修ホール	2F クロスカフェ
9:30～11:30		GID(性同一性障害)学会 第5回エキスパート研修会	
12:30～	参加受付		
13:00～17:00	性科学セミナー 「性科学、メディアに流れる “噂の真相”に迫る」	性科学セミナー 控室	
17:30～19:30			日本性科学会、 性科学セミナー 合同懇親会

日 程 表 9月18日(日)

第36回日本性科学会学術集会

時 間	南新棟	基幹災害医療センター	南新棟
	2F 第1研修ホール	2F 第2研修ホール	2F 控室
8:30～	参加受付		
8:55～9:00	開会の辞		事務局 控室
9:00～9:40	一般演題Ⅰ		
9:40～10:20	一般演題Ⅱ	シンポジウムⅠ 打合せ	
10:25～11:40	シンポジウムⅠ 「地域活動での思春期教育再考」		
11:40～12:10	会長講演 「泌尿器科医として性科学へ関与で きること」		
12:10～13:00	(昼食)	理事会	
13:00～13:40	特別講演 「性科学から Men's Health をひも 解く」		
13:40～14:20	一般演題Ⅲ	シンポジウムⅡ 打合せ	
14:25～15:40	シンポジウムⅡ 「地域に根ざした男性学（アンドロ ロジー）の診断と治療」	パネルディス カッション打合せ	
15:40～16:50	パネルディスカッション 「ピアカウンセラーが語る性教育が 男性に与える変化」		
16:50～17:00	次期会長挨拶、閉会の辞		

第 36 回

日本性科学会学術集会プログラム

「地域に根ざした性の健康を考える」

8:55～9:00 開会の辞

学会長：天野俊康（長野赤十字病院泌尿器科）

9:00～9:40 一般演題 I

座長 小堀善友（独協医科大学越谷病院泌尿器科）

1. 性別適合手術術前における性別違和症候群（MTF）に対する精子凍結保存

○小堀善友、慎武、八木宏、新井学、宋成浩、岡田弘

獨協医科大学越谷病院 泌尿器科

2. 小学生の頃の性同一性障害当事者の「封じ込める」体験と学校や教員への思い

○藤田志保¹⁾、松本麻衣²⁾、矢野肇子³⁾、安藤まり³⁾、檜野千明³⁾、松岡敬典³⁾、長谷川徹³⁾、久保光太郎³⁾、酒本あい³⁾、小谷早葉子³⁾、鎌田泰彦³⁾、新井富士美³⁾⁻⁵⁾、中塚幹也³⁾⁻⁶⁾

1) 岡山済生会病院産婦人科、2) 岡山大学病院看護部、3) 岡山大学病院産婦人科、

4) 岡山大学ジェンダークリニック、5) 岡山大学病院ジェンダーセンター、6) 岡山大学大学院保健学研究科

3. 同性パートナーシップ制度および同性婚に対する大学生の意識

○矢野肇子¹⁾、松本麻衣²⁾、藤田志保³⁾、安藤まり¹⁾、檜野千明¹⁾、松岡敬典¹⁾、長谷川徹¹⁾、久保光太郎¹⁾、酒本あい¹⁾、小谷早葉子¹⁾、鎌田泰彦¹⁾、新井富士美¹⁾⁴⁾⁵⁾、中塚幹也¹⁾⁴⁾⁻⁶⁾

1) 岡山大学病院産婦人科、2) 岡山大学病院看護部、3) 岡山済生会病院産婦人科、

4) 岡山大学ジェンダークリニック、5) 岡山大学病院ジェンダーセンター、6) 岡山大学大学院保健学研究科

4. セクシュアル・マイノリティが援助要請行動のプロセスで体験するセクシュアル・スティグマに関する探索的調査

○岩垣千早

奈良女子大学大学院人間文化研究科

5. 女性性を商品とする市場に携わる男性の、男性性を健全に保ち続ける方法

○長谷部裕佳

立川相互病院 産婦人科

9：40～10：20 一般演題Ⅱ

座長 関口由紀（LUNA 骨盤底トータルサポートクリニック）

6. 小児期の肛門外傷が発端と考えられる性交疼痛症の一例

○渋谷伸一¹⁾、今井 伸²⁾

¹⁾ 聖隷浜松病院 不妊内分泌科、²⁾ 聖隷浜松病院泌尿器科

7. 高密度焦点式超音波（HIFU）とフラクショナル炭酸ガスレーザー（FCO2L）の膣壁照射の使いわけに関する検討

○関口由紀¹⁾、中村綾子¹⁾、前田佳子¹⁾、

榎本香織¹⁾、藤崎章子¹⁾、槍沢ゆかり²⁾、二宮典子³⁾、大林美貴³⁾、矢尾正祐⁴⁾

¹⁾ LUNA 骨盤底トータルサポートクリニック、²⁾ 横浜元町女性医療クリニック LUNA、

³⁾ 女性医療クリニック LUNA 心斎橋、⁴⁾ 横浜市立大学大学院医学部泌尿器病態学講座

8. 骨盤臓器脱手術患者の術前性機能に関連する因子

若年・高齢患者それぞれの検討

○藤崎章子、下稲葉美佐、本田周子、金城真実、嘉村康邦

四谷メディカルキューブ 泌尿器科

9. 女性ファッション誌『an・an』から紐解く

20-30 代の日本人女性のマスターベーション

○奥村敬子、金田淑枝、武田宗万、中野洋二郎

公立陶生病院

10. レズビアン・バイセクシュアル女性である患者と医療者のペア 6 事例の質的分析

○藤井ひろみ

神戸市看護大学

10：25～11：40 シンポジウムⅠ

「地域活動での思春期教育再考」

座長 高波眞佐治（東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科）

1. 泌尿器科の立場から

今井 伸（浜松聖隷病院 泌尿器科）

2. 産婦人科の立場から

高橋幸子（埼玉医科大学 地域医学推進センター）

3. 養護教諭・性教育研究の立場から

白澤章子（“人間と性”教育研究協議会）

4. 助産師の立場から

北原光子（長野県看護協会不妊専門相談員）

11：40～12：10 会長講演

座長 大川玲子（日本性科学会理事長）

泌尿器科医として性科学へ関与できること

天野俊康（長野赤十字病院泌尿器科）

13：00～13：40 特別講演

座長 天野俊康（長野赤十字病院泌尿器科）

「性科学から Men's Health をひも解く」

永井 敦（川崎医科大学泌尿器科学教授）

13：40～14：20 一般演題Ⅲ

座長 白井雅人（順天堂大学医学部附属浦安病院泌尿器科）

11. ワセリン注入による陰茎硬化性脂肪肉芽腫 6 例の臨床的検討

○内田洋介¹⁾、中川昌之²⁾

1) 今村病院泌尿器科、2) 鹿児島大学泌尿器科

12. 助産師と部活顧問のコラボレーション「生と性健康教育」

○山崎真子

松田ウイメンズクリニック

13. 日本におけるセクシュアルマイノリティに関する性教育の実態調査

○岩田歩子

京都大学大学院医学研究科

14. 医学部性医学教育における性機能学会非会員の現状に関する検討

○白井雅人¹⁾、辻村 晃¹⁾、AmrAbde lhamed²⁾、堀江重郎²⁾

1) 順天堂大学医学部附属浦安病院泌尿器科、2) 順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学

15. 若者の性教育の中で、性感染症予防教育はどこまで成果を上げているであろうか？ —無症候性クラミジア性感染症の大流行の現況を憂える—

○熊本悦明¹⁾、北村唯一²⁾、木下勝之³⁾

1) 性の健康医学財団 名誉会頭、2) 性の健康医学財団 理事長、3) 日本産婦人科医会 会長

14：25～15：40 シンポジウムⅡ

「地域に根ざした男性学（アンドロロジー）の診断と治療」

座長 永尾光一（東邦大学医学部泌尿器科）

1. 勃起障害（ED）・射精障害（EjD）

佐々木春明（昭和大学藤が丘病院泌尿器科）

2. 男性不妊症

日比初紀（協立病院泌尿器科）

3. 加齢男性性腺機能低下（LOH）症候群

辻村 晃（順天堂大学浦安病院泌尿器科）

4. 性同一性障害

中塚幹也（岡山大学大学院保健学研究科）

15：40～16：50 パネルディスカッション

「ピアカウンセラーが語る性教育が男性に与える変化」

座長 北村邦夫（一般社団法人日本家族計画協会）、渡邊智子（丸山産婦人科）

1. 流されないで生きることが、自分らしい暮らしをつくる

朝岡 徹（コトナハウス（地域に開かれたシェアハウス）ファシリテーター兼企画運営、
株式会社東芝 ハード設計エンジニア）

2. Happy Life Peers における性教育活動

馬場創太郎（大阪大学工学研究科博士課程）

3. ピアで学んだこと、生かされていること

山田和輝（ネクストエナジー・アンド・リソース株式会社 経営戦略室）

16：50～16：55 次期会長挨拶

次期会長 山中京子（大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類教授）

16：55～17：00 閉会の辞

学会長 天野俊康（長野赤十字病院泌尿器科）

GID（性同一性障害）学会 第5回 エキスパート研修会

日時：2016年9月17日（土）9：30～11：30

会場：長野赤十字病院 基幹災害医療センター2F（第2研修ホール）

長野県長野市若里五丁目22番1号

プログラム

司会：大阪医科大学総合医学講座神経精神医学教室 康 純

「性同一性障害の精神科での対応とその周辺領域」

大阪医科大学総合医学講座神経精神医学教室 康 純

研修ポイント（9）

性同一性障害の診断

性同一性障害と多様な性

性同一性障害診療のガイドライン

性同一性障害の診療体制点とチーム医療

性同一性障害診療における精神科的支援、診断書・意見書

性同一性障害診療における臨床心理士の役割

学校での取り組み・養護教諭・スクールカウンセラー・学校医の役割

地域の中での連携

性同一性障害と就労

「社会の観点から見た性同一性障害とトランスジェンダー」

千葉大学文学部行動科学科社会学講座 鶴田幸恵

研修ポイント（4）

性同一性障害を取り巻く社会の変遷：世界と日本

ジェンダーの概念とトランスジェンダー

WPATH SOC

文部科学省の動向

「性同一性障害のホルモン療法」

埼玉医科大学病院産婦人科 石原 理

研修ポイント（2）

MTF当事者におけるホルモン療法の実際と副作用

F T M当事者におけるホルモン療法の実際と副作用

「性同一性障害の手術療法」

山梨大学医学部附属病院形成外科 百澤 明

研修ポイント（2）

M T F 当事者における手術療法の実際と後障害

F T M 当事者における手術療法の実際と後障害

第 17 回 JFS 性科学セミナー

「性科学、メディアに流れる“噂の真相” に迫る」

■日 時：9月17日（土）13：00～17：00

■会 場：長野赤十字病院 長野赤十字病院 南新棟 2F 第1研修ホール
（〒380-8582 長野市若里五丁目22番1号）

■参加費：3000円（学生1000円）

※第36回日本性科学会学術集会にも参加の場合は7000円（学生2000円）

■プログラム：

13:00～13:10 開会挨拶 日本性科学連合会長 大川 玲子

[講 演] 座長：早乙女 智子（京都大学大学院医学研究科客員研究員）

13:10～13:40 ①「若者の目にふれる性情報のうそ、ほんと」

岩崎和代（東都医療大学ヒューマンケア学部）JFSHM

13:40～14:10 ②「情報過多の中でひとり悩む男子の性；男子思春期外来と性教育の経験から」

石川英二（石川クリニック）JSA

14:10～14:40 ③「「草食化」「絶食化」の再検討—分極化する青少年の性行動」

林雄亮（武蔵大学社会学部）JASE

14:40～15:00 講演①～③の質疑応答（20分）

15:00～15:10 休 憩（10分）

[講 演] 座長：高波 真佐治（東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科）

15:10～15:40 ④「増加する梅毒—忘れてはならない病気—」

大西真（国立感染症研究所）JSSTI

15:40～16:10 ⑤「包茎手術の過剰な広告と手術トラブル」

永尾光一（東邦大学医学部泌尿器科学講座）JSSM

16:10～16:40 ⑥「LGBTは人口の7.6%は本当か」

針間克己（はりまメンタルクリニック）JSSS

16:40～17:00 講演④～⑥の質疑応答（20分）

第36回

日本性科学会学術集会

抄録集

会長講演

「泌尿器科医として性科学へ関与できること」

長野赤十字病院泌尿器科

天野俊康

座長 大川玲子

日本性科学会理事長

泌尿器科医として性科学へ関与できること

天野俊康

長野赤十字病院泌尿器科

医学部を卒業し臨床医を目指す場合、どの科を選択するかは人生に関わる一大事といっても過言ではない。自分の場合、泌尿器科という今でもマイナーと呼ばれる科を選択した。現在でも、初期研修医の必須の科ではないため、マンパワー的には充足している状況とはほど遠い。その一方で、男性の発症する癌の第一位になりつつある前立腺ガンはじめ、尿路性器領域のガンの重要性は増大し続けている。従って、泌尿器科医である以上、ガンの専門的な知識、経験を持ち、診断、治療に当てられる時間は極めて長くなる。

しかしながらその一方で、泌尿器科は、男性の一生に深く関わっている科である。出生後から小児の尿道下裂、停留精巣、水腎症といった先天性疾患。男子思春期における二次性徴、精通、性体験。性成熟期以降では、尿路結石、性感染症、男性不妊症、中年以降では男性更年期障害、勃起障害などの性機能障害、透析や腎移植。高齢者では、前立腺ガンをはじめとした尿路生殖器系のガンなど、泌尿器科の専門領域が一生にわたり関わってくる。

このような守備範囲をもつ泌尿器科であるが、性科学、特に男性の性に関しては、医学領域においては、泌尿器科が先頭に立ちリーダーシップを発揮しなくてはならない。実際、これまでに200回以上の思春期講演会、男性不妊症や性機能障害の診断・治療に携わってきたが、すべての泌尿器科医がこれらの領域に関心を持っているわけではない。しかしながら、男性の一生を通じて性に専門的に関わっていくには、やはり泌尿器科医が適任である。性機能・性科学領域に関わっている泌尿器科医として、院内での勤務に加え、思春期教育や啓蒙活動など院外においても活動を続け、さらに他の泌尿器科医への働きかけを行い、マンパワー不足を解消し、性教育、思春期教育の裾野を拡げていくことが重要である。

会長講演

【プロフィール】

愛知県岡崎市出身

昭和 57 年：金沢大学医学部卒業・金沢大学医学部泌尿器科教室入局

昭和 60 年～昭和 62 年：米国マサチューセッツ総合病院・泌尿器科留学

平成元年：金沢大学医学部大学院卒業

平成 3 年：金沢大学医学部助手

平成 7 年：金沢大学医学部講師

平成 8 年：長野赤十字病院第一泌尿器科副部長

平成 10 年：長野赤十字病院第二泌尿器科部長

平成 26 年：長野赤十字病院第一泌尿器科部長

特別講演

「性科学から Men's Health をひも解く」

川崎医科大学泌尿器科学

永井 敦

座長 天野俊康

長野赤十字病院泌尿器科

性科学から Men's Health をひも解く

永井 敦

川崎医科大学泌尿器科学

私、生涯一人の女性と暮らしていますが、反省の毎日です。なんでこの人を好きになったのだろう？自分のホームなのにアウェイ状態。実は結婚を決断した当時、テストステロンに支配されていたのです。テストステロンのせいで、彼女がきれいに見え、彼女を独り占めしたくなっただけなのです。テストステロンはある意味罪作りです。しかし、実はテストステロンがなければ男性は短命になり、ヒトとしての重要な機能が働きません。

加齢によるテストステロンの低下に伴う諸症状を LOH (late onset hypogonadism) 症候群と言います。筋肉量低下、骨粗鬆症、認知力低下、うつ、貧血、下部尿路症状の他、メタボリック症候群を来し、心血管疾患による死亡率も上昇します。性欲・勃起・射精障害も起き、満足な性生活が送れなくなります。まさに男性にとって不都合なことばかりが起きてきます。LOH 症候群にはテストステロン補充療法を行います。効果は速やかに発現します。やる気が出てきて活気に満ちた生活が送れ、パートナーとのいい関係が回復します。また、特に勃起障害を訴える場合は、PDE5 阻害薬を投与します。PDE5 阻害薬は勃起機能を改善させる他、下部尿路症状をも改善させます。さらに血管内皮機能改善作用も報告されています。

すなわち男性にとって、テストステロンを維持し、さらに PDE5 阻害薬を使用することはメンズヘルスにつながります。勃起と射精をいつまでも維持することが長生きするコツなのです。酸化ストレスを防ぐ果物、野菜、ビタミン B 群の豊富な食べ物、 ω -3 系脂肪酸が豊富な魚類などの摂取もメンズヘルスに最適です。齢を重ねても、いつまでも健康で生産性を保ち、パートナーと共に元気で素敵なカップルライフを築いていくことが、これからの超高齢社会にとって必要です。まさに日本性科学会が今の日本において重要な役割を担っていると言っていいでしょう。

特別講演

【プロフィール】

現 職：川崎医科大学泌尿器科学教室 教授

川崎医科大学附属病院 副院長・医療安全管理部長・患者診療支援センター長

昭和57年 岡山大学医学部医学科卒業

平成6年 岡山大学医学部附属病院助手

平成15年4月 岡山大学医学部・歯学部附属病院泌尿器科講師

平成18年1月16日～川崎医科大学泌尿器科学教室 教授

日本性科学会理事・公認セックスセラピスト

2010年 第30回日本性科学学会（倉敷市）会長

監修著書：愛が深まる SEX POSITIONS 365（ブックマン社，東京 2011）

シンポジウムⅠ

「地域活動での思春期教育再考」

座長 高波眞佐治

東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科

「地域活動での思春期教育再考」座長の言葉

高波眞佐治

東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科

生殖は、自分の遺伝子を健全に次世代に伝え、子孫繁栄に不可欠なものです。性欲に操られて起こる性犯罪、望まない妊娠、性感染症などを未然に防ぐために、性教育は是非とも必要なものです。しかし、儒教の教えが流れていた日本人には、性に対する羞恥心が強く、それを表に出さない事が美学と考えていたかと思います。それにより、教員の考えの違いや地域差によって、バッシングが未だにあり、苦手な性教育が平等になされている訳ではないのが現状です。

御自分でも出張性教育講義をされている天野俊康会長が地元長野の「地域に根ざした性の健康を考える」をテーマに第36回日本性科学学会が開催されます。

このシンポジウムⅠでは4人の先生方に永年たずさわられて来た学校への出張性教育講義の経験を元に御講演を戴きます。出張講義の成果や問題点などを挙げながら皆様と討論したいと考えています。

高橋幸子先生には「産婦人科医師による地域に根差した性教育」と題して、埼玉県内で行われてきた講演を通して知識のみならず、講演後の相談に対して敷居の高い病院受診を如何に気軽にしているかの工夫などをお話して戴きます。

白澤章子先生には「“まちかど保健室”における性教育の取り組み」と題して、経済的理由で希望や意欲を無くし、人生そのものへの諦めへと繋がっていく子供たちに正しい性知識を授けるために、定年退職後の養護教諭がボランティアで始められている「まちかど保健室」の取り組み状況をお話して戴きます。

北原光子先生には「不妊相談から考える思春期における性の健康教育」と題して、不妊相談の現場からの性に関する誤った思い込みの是正、学校での性の健康教育での現在の子供たちの問題点をお話して戴きます。

今井伸先生には「現代の男子は「性欲の虎」を飼っているのか?」と題して、適切な時期(思春期)に適切な指導(性教育)を受ければ、勃起や射精や性欲をうまくコントロールできるのではないかというお話を戴きます。

全国の児童・生徒に対し、平等に正しい性知識を習得して貰えるように、我々ができる事を話し合ひましょう。

【プロフィール】

昭和 54 年 3 月 東邦大学医学部卒

昭和 57 年 1 月 米国ベイラー医科大学, 睡眠障害研究センターへ留学

昭和 58 年 7 月 東邦大学医学部泌尿器科学講座助手

平成 2 年 4 月 東邦大学医学部泌尿器科学講座講師

平成 8 年 3 月 東邦大学医学部付属佐倉病院泌尿器科助教授

平成 10 年 5 月 東邦大学医学部付属佐倉病院泌尿器科教授

平成 18 年 4 月 東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科教授

現在に至る

受 賞

平成元年度東邦大学医学部林基之賞受賞

第 78 回日本泌尿器科学会坂口賞受賞

学会の役職

日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本性機能学会専門医。

日本性機能学会理事、日本思春期学会常務理事。日本性科学会理事。

日本ストーマ排泄リハビリテーション学会理事、副理事長。

日本アンドロロジー学会、日本生殖医学会、日本自律神経学会、日本 Men's Health 医学会の各評議員。日本自律神経学会の編集委員。

東京ストーマリハビリテーション研究会副会長。

泌尿器科の立場から 現代の男子は「性欲の虎」を飼っているのか？

今井 伸

聖隷浜松病院泌尿器科

夏目漱石は、自伝的小説「キタ・セクスアリス」の中で、「自分は性欲の虎を馴らして抑えている」と書いた。高校生の時にこの文章を読んだとき、私は強く同意した。私自身は、その虎を馴らすために中学生の時にマスターベーションを覚えたが、それ以来、猛虎は毎日、何度も襲来して困ったが、友達の全て（男子全員）が自分と同じように、性欲の虎を飼い慣らすことに苦勞していると考えていた。それゆえ、医学部に入り、泌尿器科医になると決めたのも、「勃起や射精をうまくコントロールできない男性の役に立ちたい（自分もそうなることも困るから）」と思ったからだった。

実際に、男性不妊症、性機能外来を担当すると、勃起や射精に問題を抱える生殖年齢の男性が多いことに驚かされた。マスターベーションのやり方に問題がある腔内射精障害、性に関する知識不足からくる自信のなさによる心因性 ED、仲良しなのにセックスレスなど、治療に難渋させられることが多い。マスターベーションの方法に起因する射精障害や性に関する知識不足による ED などは、「適切な時期（思春期）に適切な指導（性教育）を受ければ予防できるのではないか」という考えに至り、2001 年から性教育に関わり始めた。

中学校や高校での男子に対する性教育講座では、「猛虎」を飼っている（性欲の強い）男子たちに正しい性の知識を教えることと、「高校を卒業するまではセックスをしないように」教育することが求められている（と感じている）。

でも、本当に猛虎を飼っている（セックスをしたくてたまらない）男子が多いのか？

コンドームを使うことを拒否したり、暴力をふるったりする男子が多いのか？

草食系、絶食系男子の割合はどのくらいで、対応はどうするのか？

多様化する性の表現型、LGBT をどう教えていくのか？

現代の中高生男子に対する性教育講座の在り方について考察する。

シンポジウム 1 - 1

【プロフィール】

1997 年 3 月 島根医科大学卒業

1998 年 1 月 松江生協病院泌尿器科

2000 年 4 月 島根医科大学附属病院

2004 年 4 月 島根大学医学部助手

2005 年 1 月 聖隷浜松病院泌尿器科

2006 年 4 月 聖隷浜松病院泌尿器科医長

2010 年 10 月～ 聖隷浜松病院泌尿器科主任医長

資格：

日本泌尿器科学会専門医・指導医

日本性機能学会専門医・評議員

日本性科学会幹事・セックスセラピスト

島根大学臨床准教授（性機能障害、男性不妊担当）

産婦人科の立場から 産婦人科医師による地域に根差した性教育

高橋幸子

埼玉医科大学 社会医学 地域医学推進センター
埼玉医科大学病院産婦人科

地域に根差した性教育として、受診につなぐ工夫と、性教育仲間との連携を紹介したい。

平成 27 年度は埼玉県内で 60 回の講演を行った。小学校 9 件、中学校 30 件、高校 17 件、大学 4 件。他に北海道釧路市で高校 3 件を行っているが、ここで感じていることは「何かあったときは私が診てあげる」という近接性が結構重要だということである。「何かあったら私のところにいらっしゃい」そう言ってあげられる科として産婦人科を選択したが、現実にはそうできていない。釧路でも埼玉県内でも近隣で私が診ることができる割合はかなり低い。

ではどうしているかという、講演の最後に自分のメールアドレスを公開している。8 年前は 100 人に一人の割合でメールが来たが、最近は 1000 人に一人の割合である。講演後に個別の相談時間を設けると、100 人に一人くらいが訪室する。

講演会は実は顔と顔がつながる、大事な場である。講演の内容としては性感染症や望まない妊娠の話に力を入れがちだが、生徒たちが今実際に困っているのは月経であり、腹痛である。毎月訪れるそのときに「この先生なら相談できる」と思いだしてもらうチャンスでもある。

そこで、講演の際に私が直接知っている近隣の産婦人科医師を紹介してくるということをはじめた。大人にとっても産婦人科は受診への敷居が高い。生徒にとっては更に高いのだ。避妊や性感染症の「知識」を与えるだけでなく、「受診の敷居を下げる」ことが近隣の医師が性教育を行う意義ではないか。

また、埼玉県内には性教育講演を行うことができる仲間がたくさんいる。私が会長をつとめている「彩の国思春期研究会西部支部・たんぽぽ」では助産師、保健師、養護教諭、女優、大学生などが性教育講演を行っており、「展示会」と銘打って講師の紹介をする場を設けてみた。医師として近隣の性教育仲間を束ね、一緒に学び、安心して紹介できる人材を育て、地域の性教育が活発になることを目指している。

【プロフィール】

平成 12 年山形大学医学部卒業。

平成 15 年埼玉医科大学病院産婦人科助手となる。

平成 25 年 11 月より埼玉医科大学地域医学医療センター助教。

平成 28 年 4 月より埼玉医科大学 社会医学 地域医学推進センター助教

埼玉医科大学病院産婦人科思春期外来担当。

彩の国思春期研究会西部支部会長。

養護教諭・性教育研究の立場から “まちかど保健室”における性教育の取り組み

白澤章子

川中島の保健室

1 背景

親のリストラ・倒産・病気・離婚などが原因の経済的理由で、高校を退学する子や大学進学をあきらめている子どもがいます。これら「子どもの貧困」の実態が、希望や意欲を無くし、人生そのものへの諦めへと繋がっています。自己肯定感・自己嫌悪感の高さに対するアプローチをどう考え、実践を構想していくのかが問われています。まちかど保健室もその一つを担っています。東京では、障害を持つ子どもに分かりやすく教えたいと実践してきた養護学校に対して政府とマスコミは「過激な性教育」とパッシングしました。このことにより全国の学校では、性交と外性器を学ぶことから遠ざかって13年になります。ドロップアウトした子どもたちは、正確な情報を得ることができず、メディアやインターネットなど身近にある情報源から有害なメッセージを受け取り、その結果、突出した性行動が学校で起きています。戸惑う教職員は、定年退職した養護教諭がボランティアとして始めている「まちかど保健室」などに救いを求めています。

2 方法

- ①愛情がなくても性交することの考えや性交を経験したときの動機など子どもの状況を明らかにする。
- ②学校現場で起きた突出した行動の1例に対して、その取り組みと成果を明らかにする。
- ③定年退職した養護教諭が始めている「まちかど保健室」のこれまでの活動を整理する。
- ④長野県の実況として、青少年育成条例を巡り、見直しを行った県民運動の実況を示す。

3 結果

まちかど保健室などの活動は、多忙な学校現場での性教育に対して行政が県民運動の1つとして期待しています。また、学校や地域から依頼を受け、外部講師として性教育を提供した結果、学校だけでなく地域から性教育の輪が広がっています。

4 考察

格差、貧困の有無にかかわらず、どの子にも平等に性の学びを通して性に関する学力をつけていくことは大切です。個の関わりとして、だれもが気軽に相談ができ、地域でつながることができる“まちかど保健室”は、退職した養護教諭が一役を担うことができる取り組みであると考えます。

【プロフィール】

“人間と性”研究協議会ブロック幹事 長野サークル代表

長野県青少年育成県民会議 常任理事

地域での子どもさんの相談を中心に保護者の方への支援活動を行っています。
また、学校や公民館、地域サークル、障害を持ったお子さんをお持ちの保護者の
方向けに性の健康教育の講演活動をしています。

助産師の立場から 不妊相談から考える思春期における性の健康教育

北原光子

(公社) 長野県看護協会 長野県不妊専門相談センター

1、不妊相談の現場から

不妊相談を受けていると次のような言葉を聞く。

- ・結婚すればすぐに子どもを授かると思っていた (30 代後半のカップル)
- ・卵子の老化って聞いていたけどこれほど年齢が影響するとは (40 代前半女性)
- ・結婚予定。彼女に 6 年間月経が来ていない。妊娠は可能か? (20 代男性)
- ・射精があるから精子もあると思っていた (乏精子症の 30 代男性)
- ・不妊の原因は女性ほうが多いと思っていた。まさか自分が……。 (30 代男性)
- ・月経がこんなにたくさんのホルモンの影響を受けて起こっているなんて?

(30 代女性) などなど

このように子どもを望んでいるカップルでさえ、妊娠の事、自分の体の事を知らない。学んだことがない、または学ぶ機会がなかった。妊娠には適齢期があることを知っていたら、もっと違った選択ができたかもしれないし、今の状態でも覚悟をして治療に望めたかもしれないと考える。

2、学校での性の健康教育にかかわるなかで

自分の命、性を引き受け、人生を歩いていくために、二次性徴や命の誕生について語り(かけがえのない命)、自分の身を守り、自分の人生を守るために予期せぬ妊娠や性感染症、性被害について伝える。知識があっても、自分の事として考えられない、パートナーと対等な関係がつかれず不安を抱えながら相手の言いなりになってしまいトラブルに巻き込まれてしまう。コミュニケーションが持てない、ジェンダーの幼少期からの刷り込みで生きづらくなっている。

3、思春期に必要な教育

- ・肯定的な「からだ観」を育て自分を大切に
(男性の性教育…射精や精子のこと 女性の性教育…卵子、エストロゲンのこと)
- ・人間関係を築くために
(コミュニケーションスキル ジェンダーについて学ぶ)
- ・思春期からの妊娠出産に関する教育
(ライフデザインセミナーの開催 産みどき育てどき)

【プロフィール】

昭和 56 年 諏訪赤十字看護専門学校卒業 看護師免許取得

昭和 58 年 日本赤十字社助産婦学校卒業 助産師免許取得

総合病院産婦人科、看護専門学校専任教員として勤務

平成 14 年 (公社) 長野県看護協会 母子相談員～現職

平成 19 年 長野県不妊専門相談センター 相談員～現職

平成 21 年 日本不妊カウンセリング学会認定 不妊カウンセラーとなる

これらの仕事をしながら

平成 18 年より松本市、塩尻市、安曇野市の小学校や中学校で性の健康教育に携わり現在に至る

昨年から「ライフデザインセミナー」を高校生に行う

シンポジウムⅡ

「地域に根ざした男性学（アンドロロジー）の
診断と治療」

座長 永尾光一
東邦大学医学部泌尿器科

「地域に根ざした男性学（アンドロロジー）の診断と治療」 座長のことば

永尾光一

東邦大学医学部泌尿器科学講座

男性学（アンドロロジー）とは何か。女性については婦人科学、診療科では婦人科がありますが、男性科はあまり聞かれない診療科です。海外では、泌尿器科学講座だけでなく男性学講座がある国もあります。本邦では、婦人科学は発展していますが男性学はこれから発展する分野です。内容としては、性機能、男性不妊、男性更年期障害、性分化（性同一性障害を含む）、前立腺がんなどが含まれています。

今回のテーマは、「地域に根ざした男性学（アンドロロジー）の診断と治療」ですので、各分野の専門家に地域医療を担う方々にわかりやすく解説していただけると期待しています。そして専門家でなくても明日からすぐに役立つ内容にしていきたいと思います。

勃起障害 (ED)・射精障害 (EJD)

佐々木春明¹⁾、杉下裕勇¹⁾、黒川一平¹⁾、谷藤暁¹⁾、山岸元基¹⁾、
今村雄一郎¹⁾、下山英明¹⁾、山本健郎¹⁾、太田道也¹⁾、石川公庸²⁾、
林圭一郎³⁾、深貝隆志³⁾、押野見和彦⁴⁾、森田順⁴⁾、七条武志⁴⁾、小川良雄⁴⁾

¹⁾ 昭和大学藤が丘病院泌尿器科、²⁾ 横浜新緑総合病院泌尿器科、

³⁾ 昭和大学江東豊洲病院泌尿器科、⁴⁾ 昭和大学医学部泌尿器科

1999年にシルデナフィルが上市され、その後EDに関する認識は急速に広がった。現在ではバルデナフィルやタダラフィルの先発薬以外にもシルデナフィルの後発薬品を含めて市場に氾濫している。インターネットでの購入による偽造品が問題視されており、海外では偽造品による健康被害も報告されている。一方、射精障害に関してはまだまだその認知度が低い。適切な治療薬が存在しないことがその原因の大きな一因であると思われる。

そこで、われわれの施設でのED症例、射精障害症例を検討して、非専門医でどこまで診断が可能か、治療が可能かを提示したい。

1. 勃起障害 (ED)

その原因により心因性と器質性に分類される。心因性EDは若年者に多く、ストレスが原因となることが多い。一方、器質性EDは中高年に比較的多く、生活習慣病を合併していることが多い。いずれの場合の治療法はPDE5阻害薬の服用である。心因性EDの場合は自信を取り戻すことを目標とする。また、挙児希望の事が多いので、半減期の長い薬剤が推奨される。一方、器質性EDは動脈硬化性変化による血流低下が原因と思われるため高用量の薬剤を使用する必要がある。

2. 射精障害

射精障害は、①自慰射精・腔内射精ともに不能（逆行性射精／emission less）、②腔内射精のみ不能、③射精時間の異常（早漏・遅漏）、④その他の4型に分類される。①は腹部・骨盤内手術、糖尿病、薬剤性が原因となる。②と③は心因性が大半である。①のうち薬剤が原因の場合は減量または中止する。それ以外は三環系抗うつ薬が有効との報告がある。②の原因は、マスターベーションの方法に間違いがあることが多く、専門的指導が必要である。③の早漏についてはSSRIやPDE5阻害薬が有効との報告がある。

【プロフィール】

昭和 61 年 3 月 昭和大学医学部卒業

平成 20 年 5 月 昭和大学藤が丘病院泌尿器科 医長（准教授）

平成 24 年 6 月 昭和大学藤が丘病院泌尿器科 教授

平成 25 年 4 月 昭和大学藤が丘病院 副院長

男性不妊症

日比初紀

協立総合病院泌尿器科

昨年5年毎の国勢調査がなされ、平成27年の確定値で国勢調査人口が初めて減少し1億2711万人となった事は記憶に新しい。総人口は減っている一方で、平成26年の確定値で高齢者が初めて3000万人を突破し、日本人の4人に1人は高齢者となった。しかし子供は昭和57年より35年連続して減少、平成27年には1605万人となった。世界の人口4000万人以上の30カ国中、子供の人口に占める割合は日本が最低で、これが本邦の抱える少子高齢化の実態である。晩婚化・晩産化などライフスタイルの変化や経済的要因など、その原因は多岐にわたるが、不妊症による出生数の減少も重要な一因として挙げられる。

一般的に継続的に性交を行っているカップルが、1年間妊娠が成立しない場合不妊症と定義される。挙児希望のあるカップルが1年で妊娠する確率は約85%と言われており、約15%が不妊症を呈する事となる。その原因は女性要因も男性要因もほぼ同等であり、更に原因不明も11%を占める。しかしながら不妊症のため医療機関を受診するのは主に女性であり、男性因子が検索されないまま不妊治療施設で生殖補助医療が行われる場合も多く、男性不妊の診断や治療が十分に行われていないのが現状である。患者側も医療者側も、この現状を踏まえ男性不妊について更に認識を深める必要があると考えられる。本シンポジウムでは男性不妊の診断と治療の概略をお話しする。

【プロフィール】

昭和 34 年 8 月 25 日岐阜県揖斐川町で出生

昭和 59 年愛知医科大学卒業

市立岡崎病院で研修、麻酔科標榜医取得

公立陶生病院、名古屋大学、愛知医科大学を経て平成 14 年より協立総合病院泌尿器科勤務。

平成 19 年より同病院外科系副院長。

趣味：スキー（アルペン） / トレイルランニング

加齢男性性腺機能低下（LOH）症候群の診療と問題点

辻村 晃

順天堂大学医学部附属浦安病院泌尿器科

男性ホルモンであるテストステロンが加齢とともに低下することで様々な症状を呈することが知られるようになり、2000年頃から男性更年期障害という名称が用いられるようになった。ただし、一般的な男性更年期の症状はテストステロンが正常でも認められる。そのため、よりテストステロンの低下、すなわち性腺の機能低下が引き起こすことに注目する意味合いから、加齢男性性腺機能低下（LOH）症候群という名称が提唱された。実際、テストステロンは男性の健康維持に極めて重要であり、その低下は様々なLOH症状—性機能障害、抑うつ、睡眠障害、筋力低下、内臓脂肪の増加、皮膚の変化、骨粗鬆症などを生じる。さらに、テストステロンの低下がメタボリック症候群のリスクファクターとなり、生命予後にまで影響する疫学調査も報告されている。また、最近テストステロンは社会的適応力にも関係する社会性ホルモンとする新たな知見も報告されるようになった。LOH症候群に対する治療の原則は低下したテストステロンを回復させることを目的としたテストステロン補充療法である。すでに2007年に発刊された「診療の手引き」ではフリーテストステロン値8.5pg/mlが一つの基準値として示され、これまで日本ではこの基準値以下の患者にテストステロン補充療法が行われてきた。治療効果は、日本の代表的な施設からの総合的な治療成績としてまとめられており、ほぼ6-7割程度と報告されている。しかし、世界的にはトータルテストステロンを基準とした診療が行われていることに加えて、日本のフリーテストステロン測定キットのたび重なる変更が臨床の現場を混乱させた。治療効果の評価方法が一定していない問題点も指摘されている。

本シンポジウムでは、テストステロンにおける最近の知見を紹介する。同時に、LOH症候群に対する治療の現状を解説し、臨床における問題点を明確にしたい。

【プロフィール】

1988 年 兵庫医科大学卒業

1990 年 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター泌尿器科 医員

1997 年 大阪大学医学部泌尿器科助手

1998 年 ニューヨーク大学泌尿器科および細胞生物学 臨床研究院

2005 年 大阪大学医学部泌尿器科講師

2010 年 大阪大学医学部泌尿器科准教授

2013 年 大阪大学医学部泌尿器科病院教授

2014 年 順天堂大学医学部附属浦安病院泌尿器科先任准教授

性同一性障害

中塚幹也

岡山大学大学院保健学研究科、岡山大学ジェンダークリニック、岡山大学病院産婦人科

性同一性障害では、生物学的性(身体の性)と性の自己認識(性自認、心の性)とが一致せず、性別違和感を持つ。性自認は女性、身体の性は男性である Male to Female (MTF) と性自認は男性、身体の性は女性である Female to Male (FTM) とに分類される。性同一性障害の診療において、ホルモン療法は身体的治療の導入として重要な役割を持つ。

岡山大学ジェンダークリニックを受診する性同一性障害当事者の約 9 割が中学生までに性別違和感を持ち、二次性徴、制服、恋愛などの悩みとともに自殺念慮は高率になる。FTM 当事者は、二次性徴発現後でも、アンドロゲン製剤投与により月経は停止し、ひげが生え、声も低くなる。しかし、MTF 当事者では、声変わりをして、ひげが生え、男性的な体型になってからエストロゲン製剤を投与しても変化は少なく、その後の Quality of life (QOL) に影響する。GnRH アゴニストなどによる二次性徴抑制療法が施行されるが、その間も専門医による定期的な観察が必要である。

成人の MTF 当事者へのエストロゲン投与は生殖機能や性機能に影響する。このため、結婚例では妻の同意が必要である。効果の評価には、血清テストステロン値の女性レベルへの低下、勃起の抑制、長期的には乳房腫大等の体型の女性化を確認する。ひげの減少、声の女性化は限定的であり、レーザー脱毛、ボイストレーニング、声帯の手術などが行われる。FTM 当事者へのアンドロゲン投与で卵巣機能が喪失することはないが、ひげや声の低音化は不可逆的であり、十分な説明と同意が必要である。短期間で排卵は抑制され月経は停止する。にきび、毛嚢炎、男性型脱毛が見られ、内臓脂肪は増加しやすい。多血症、HDL- コレステロール低下、LDL- コレステロール上昇、インスリン抵抗性などを起こし、血管硬化が促進されるため、禁煙や体重管理などの指導が重要である。

【プロフィール】

岡山大学大学院保健学研究科 教授

岡山大学ジェンダークリニック 医師

GID(性同一性障害)学会 理事長

1986 年 岡山大学医学部卒業

1991 年 日本産科婦人科学会認定医

1992 年～1995 年 米国 NIH(National Institutes of Health) に留学

1994 年 岡山大学大学院修了, 医学博士

1998 年～ 岡山大学ジェンダークリニック

2004 年～ 岡山県不妊専門相談センター「不妊・不育とこころの相談室」センター長(兼任)

2006 年～ 岡山市男女共同参画専門委員会委員

2011 年～ 岡山県青少年健全育成促進アドバイザー

2013 年～ 岡山大学生殖補助医療技術教育研究センター 教授(兼任)

2014 年～ おかやま妊娠・出産サポートセンター「妊娠・安心相談室」センター長(兼任)

2014 年 文部科学省学校における性同一性障害に係る参考資料作成協力委員会委員

2016 年 GID(性同一性障害)学会認定医

パネルディスカッション

「ピアカウンセラーが語る
性教育が男性に与える変化」

座長

北村邦夫

一般社団法人日本家族計画協会

渡邊智子

丸山産婦人科

パネルディスカッション

「ピアカウンセラーが語る性教育が男性に与える変化」 座長のことば

北村邦夫

一般社団法人日本家族計画協会

渡邊智子

丸山産婦人科

長野県では若者が自らの力で「性と健康」の問題に取り組めるようにと、行政が企画し、ピア・カウンセラーの養成と、その後のサークル活動を支えて13年になります。毎年夏休みの時期に、県内の複数の大学から応募してきた学生に4日間の養成講座を行い、有志が集まってそれぞれの地域で同世代の仲間に向けて、活動をするサークルを運営しています。

例年男子学生の参加は少なく、数名いればいいほうですが、今回のパネリストの3名は、熱心に活動をしてくれたメンバーです。でも彼らも最初から積極的だったわけではありません。理系の学生で、シャイで多数を占める女性のメンバーにいじられ、悩みながらもそれぞれに成長し、社会人になった今もピアで学んだ経験を生かしてくれています。

パネリストのみなさんに、それぞれピアから何を学び、それが自分の中でどのように息づいているのかを伺い、男性にとっての「性と健康教育」の意義について、会場のみなさんとディスカッションできますことを願っています。

また座長をお願いしている北村先生は、長野県の地方紙において、息子さんとの対談を連載されており、男の子を持つ保護者の多くが、毎月楽しみに購読し、バイブルとしています。私は男の子を育てた経験がありませんので、北村先生からのアドバイスも大変楽しみにしております。

流されないで生きることが、自分らしい暮らしをつくる

朝岡 徹

コトナハウス（地域に開かれたシェアハウス）ファシリテーター兼企画運営、
株式会社東芝 ハード設計エンジニア

私は大学時代に、思春期ピアエデュケーションを行う学生団体「長野 Happy Life Peers」に所属していました。そこでの経験から「流されないで生きる」ことの大切さを学び、それは今、自分らしく暮らすうえで、考え方の基盤になっています。

当時の活動のひとつとして、学校の先生に代わって中・高校生に性教育の授業を行っていました。保健の教科書の内容だけでなく、生徒自身の人生に焦点をあて、「自分らしさとはなにか」を考える時間を大事にしていました。活動をするうえでの私の悩みは、「自分らしさ」を生徒に伝える際に、学業の成績以外の視点で語れないことでした。そんなとき、団体の仲間たちが、真摯に活動している姿に感化され、成績以外の自分らしさを探るようになりました。それまでの私は、親の期待に沿っていい成績をとることがすべてでした。しかし、活動をするなかで、いろいろな側面が自分にはあることに気づき、流されないで生きることを大事にするようになりました。

社会人になってからは、「流されないで生きる」ことを子どもたちに伝えたいという想いが沸きました。児童養護施設での保育ボランティアや、対話を通した高校性のキャリア形成ボランティアに参加しました。そして、周りの大人たちが自然と子どもに寄り添うような環境で子育てをしたくなりました。

その後、まちに開かれたシェアハウス（東京・国立市）に入居し、地域の人と関係を築いています。商店街のなかにあるという立地を活かして、シェアハウスのリビングをまちの人とシェアしています。それはまるで、昔の縁側のような場所。近所のおばあちゃん、小・中学生、新米夫婦などさまざまな人が訪れます。お互いを大事にし合える、でも近すぎない。お互い様と言って過ごしている、そんな環境のなかで、自分らしい暮らしをつくっています。

パネルディスカッション - 1

【プロフィール】

コトナハウス（地域に開かれたシェアハウス）ファシリテーター兼企画運営、
株式会社東芝 ハード設計エンジニア

Happy Life Peers における性教育活動

馬場 創太郎

大阪大学 大学院工学研究科博士課程

自身の思春期ピアカウンセリング活動実績

私は高専1年生からの5年間、思春期ピアカウンセリングサークル Happy Life Peers (HLP) の活動に参加した。

HLP は中学校・高校に行き思春期の若者に対して、ピアカウンセリングの技術を応用して性教育を実施することを主な活動内容としている。学業日程の関係で私は他のメンバーとは異なり、平日に実施される性教育活動にはあまり参加できなかったが、サークルの会議に参加して性教育活動の準備の手伝いをする裏方的な形で HLP における思春期ピアカウンセリング活動と関わった。

ライフラインを導入とした性教育

我々は性教育活動の際、妊娠・出産・性感染症等の話題への導入として「ライフライン」と呼ばれるアイスブレイクをよく行っている。

ライフラインは横軸に年齢、縦軸に幸福度を書いた用紙を受講者に配り、自らのこれまでの人生と、自分のこれからの人生において予想される出来事と幸福度を折れ線グラフ状に記入していき自分のライフラインを作成する。さらに作成したライフラインは数人のグループ内で発表して感想をお互いに共有するといった内容である。

各々のライフラインに描かれる幸福度の基準や人生展望は実に様々であり、受講者はそれらの多様性に気付くことができる。ここで我々は「もしも今、自分や恋人が妊娠したらそのライフラインはどう変化するか？」等と問題提起をし、本題への導入としていた。

ライフラインを性教育に活用することで、一般に講義形式で実施されてきた授業としての性教育とは異なり、妊娠や性感染症の問題を自分の人生の内容を変化させる事柄として捉えることができると考える。活動後の受講者アンケートをまとめてみても、「性の知識が得られた」と言う回答に加え、「自分の将来を考えることができた」と言う様な回答も確認することができ、ライフラインの活用により正しい性の知識を持つことが自分の人生を良いものにするということに気付かせる効果が見られた。

【プロフィール】

平成元年神奈川県生まれ。

長野工業高等専門学校

長岡技術科学大学工学部

長岡技術科学大学工学研究科修士課程を経て、

現在は大阪大学工学研究科博士課程にて新規セラミックス材料の創製研究に従事。

趣味はコンピューターゲームとアウトドア活動。

ピアで学んだこと、生かされていること

山田和輝

ネクストエナジー・アンド・リソース株式会社 経営戦略室

ピアカウンセリング養成講座に参加したきっかけは、正直なところ思い出せません。おそらくピア＝仲間という点に魅かれたこと、そして中学校や高校で受けた性教育に不足を感じて、興味があったのだと思います。

実際に受けた時は、30人くらいの中でほとんどが女性でびっくりしました。実は性ということよりも、話を聞く傾聴の重要性を学べたことが、その後の大きな財産になったと感じます。

会社員として勤めていた時、周りにうつ病を抱えている人が多く。相手の話を聞くということ、あるいは自分も言葉に発して、聞いてもらう機会を積極的に作ることで自分自身の考えや問題が整理でき、良化する、あるいは問題解決の糸口が見える。こういったことを多く実体験することができました。

その後、縁があって、青年海外協力隊でカンボジアへ行くのですが、やはり私の活動は、同じ隊員さんやカンボジアの方の悩みを聞く、解決の糸口がない問題もたくさんありましたが、一緒に悩み、解決策を探す。そういうことをひたすらに繰り返していくことが重要であると感じております。

帰国後、東日本大震災で石巻の避難所のお手伝いに入った時、NPOで地域の仕事をしていた時、そして現在の仕事においても、こういった傾聴やよりそうということが非常に役立っていると感じております。

【プロフィール】

現職：会社員（ネクストエネルギー・アンド・リソース株式会社）

2006年3月 信州大学大学院 工学系研究科 卒業

在学中に、ピアカウンセラー養成講座を受けボランティア活動に参加する。

2006年4月 会社員

2009年1月 青年海外協力隊 カンボジア 環境教育

2011年10月 NPO職員

2015年7月 会社員 現職

一般演題 I

座長 小堀善友

獨協医科大学越谷病院 泌尿器科

1. 性別適合手術術前における性別違和症候群（MTF）に対する精子凍結保存

小堀善友、慎武、八木宏、新井学、宋成浩、岡田弘

獨協医科大学越谷病院泌尿器科

緒言

現在日本では、精子凍結の適応として、①生殖補助医療に用いられる場合、②悪性腫瘍の化学療法や放射線治療に伴う副作用により造精機能の低下が予想される場合に治療前に精子凍結保存を行うことができる。今回、われわれは性別適合手術術前に性別違和症候群女性（MTF）に対して、本人の希望により精子凍結保存を行った。

症例

25歳の性別違和症候群女性（MTF）。精神科の主治医より、当院へ紹介となった。性別適合手術を予定されており、その術前に精子凍結保存を希望。女性ホルモン投与はされておらず、精子凍結保存後にホルモン療法を希望されていた。当院倫理委員会にて承認後、本人に対する十分なインフォームドコンセントのうえ、マスターベーションによって採取された精子を凍結保存した。精液検査結果は良好であった。

考察

性別違和症候群は、ホルモン療法と性別適合手術を受ける必要があるが、その結果に生殖能力は不可逆的に喪失する。そのため、悪性疾患治療により生殖機能を失う可能性のある人たちとまったく同様に、性別違和症候群にも同様の選択肢が与えられるべきであると考えられる。現在の生殖補助医療の技術を用いれば、性転換者が将来的に自分の遺伝的子どもをもつ可能性を提供できるので、精子ないし卵子保存の選択肢の検討が、ホルモン療法と外科手術の前になされるべきである。この性別違和症候群女性（MTF）の場合は、女性がパートナーの場合は人工受精や体外受精を行うことができる。パートナーが男性の場合は、第3者の卵子提供や代理母などが必要になる。しかし問題として、日本国内では代理母は認められていない。また、日本産婦人科学会ガイドラインでは、FTMの婚姻前の卵子の凍結を推奨しておらず、精子に関しては決まっていないのが現状である。

2. 小学生の頃の性同一性障害当事者の「封じ込める」体験と 学校や教員への思い

藤田志保¹⁾、松本麻衣²⁾、矢野肇子³⁾、安藤まり³⁾、檜野千明³⁾、
松岡敬典³⁾、長谷川徹³⁾、久保光太郎³⁾、酒本あい³⁾、小谷早葉子³⁾、
鎌田泰彦³⁾、新井富士美³⁾⁻⁵⁾、中塚幹也³⁾⁻⁶⁾

¹⁾ 岡山済生会病院産婦人科、²⁾ 岡山大学病院看護部、³⁾ 岡山大学病院産婦人科、

⁴⁾ 岡山大学ジェンダークリニック、⁵⁾ 岡山大学病院ジェンダーセンター、

⁶⁾ 岡山大学大学院保健学研究科

小学生の頃の性同一性障害当事者の周囲の人々、特に、学校や教員への思いについて調査したので報告する。2014年1～7月、岡山大学ジェンダークリニック産婦人科外来を受診した性同一性障害当事者のうち、小学生以前から性別違和感を持っていた MTF 当事者 52 名と FTM 当事者 61 名を対象とし、同意のもと無記名自己記入式質問紙調査を施行した。

小学生の頃に、性別違和感をカミングアウトしようと思った相手に関しては、一般教員との回答は、MTF 当事者 4.0%、FTM 当事者 3.6%、養護教諭は各 2.0%、1.8%と低率であり、「誰もいなかった」との回答は各 78.0%、71.4%であった。言葉で「すぐ伝えることができた」との回答は、各 0%、10.0%、「少し迷ったが伝えた」も各 6.5%、8.0%と低率であった。

自身の悩みを「理解してもらえない」と思った人としては、一般教員は各 41.1%、31.9%、養護教諭は各 23.5%、17.0%、「助けてくれる」と思った人としては、一般教員は各 5.6%、9.1%、養護教諭は各 5.6%、2.3%であった。教員に関する辛かったこととしては、「男は男らしく、女は女らしく」「(性別違和感を持つことは) いけないこと」「気の迷い」との発言が、また、学校への要望としては「専門家に相談してほしい」「授業で取り上げてほしい」「特別扱いはせず普通に接してほしい」などが挙げられた。

このように、自身の小学生時代には、理解してもらえないと感じ、カミングアウトはできなかったものの、「本当は、小学生の頃を中心に支えてほしい」と思う人としては、一般教員は各 63.8%、60.4%、養護教諭は 68.1%、58.53%と高率であった。

子どもの頃の性同一性障害当事者のカミングアウトを困難とする背景をさらに解析し、学校での支援を検討する必要がある。

3. 同性パートナーシップ制度および同性婚に対する大学生の意識

矢野肇子¹⁾、松本麻衣²⁾、藤田志保³⁾、安藤まり¹⁾、樫野千明¹⁾、
松岡敬典¹⁾、長谷川徹¹⁾、久保光太郎¹⁾、酒本あい¹⁾、小谷早葉子¹⁾、鎌田泰彦¹⁾、
新井富士美¹⁾⁴⁾⁵⁾、中塚幹也¹⁾⁴⁾⁻⁶⁾

¹⁾ 岡山大学病院産婦人科、²⁾ 岡山大学病院看護部、³⁾ 岡山済生会病院産婦人科、

⁴⁾ 岡山大学ジェンダークリニック、⁵⁾ 岡山大学病院ジェンダーセンター、

⁶⁾ 岡山大学大学院保健学研究科

〔目的〕セクシャルマイノリティ、特に、同性愛の当事者が、法的に家族を持つ方法として、同性婚があるが、日本では一部の自治体のみが同性パートナーシップを認めている状況である。今回、性のあり方に関わらず、暮らしやすい社会について考えるため、大学生における知識や意識を調査した。

〔方法〕2015年7～8月、大学生430名を対象に無記名の自己記入式質問紙調査を施行した。同意のもと記入をした404名から回収が得られた（回収率94.0%）。尚、本研究は施設倫理審査委員会の承認を得て実施した。

〔成績〕「セクシャルマイノリティ」という言葉に接した機会としては、「TVドキュメンタリー」39.7%などのマスメディアが高率で、「学校の授業」16.6%、「実際に会った」5.7%、「パレードなどの啓発運動」2.2%であり、「接したことがない」と回答した学生も31.3%に見られた。「渋谷区で同性パートナーシップ条例が成立した」ことを知っていたとの回答は36.5%であった。「同性愛」「同性愛者」への意識としては、「公表することは勇気がいる」92.3%、「同性愛も異性愛も「愛」に違いはない」88.4%、「日本では社会的偏見がある」86.8%と高率であった。「同性パートナーシップ制度」を「認めるべき」との回答は86.6%、「自身の町にも導入すべき」83.9%と高率であった。「同性婚」を「認めるべき」との回答も84.6%、「自身の町にも導入すべき」80.6%と高率であった。また、「同性カップルは結婚をする権利がある」48.1%、「同性婚は社会的偏見を持たれる」38.6%、「少子化が進む」34.8%、「結婚制度自体が壊れる」13.0%などの回答が見られた。

〔考察〕同性パートナーシップ制度および同性婚を肯定的にとらえている大学生が高率に存在するということが明らかになった。しかし、大学生の関心や知識は十分とは言えず、偏見が生まれることがないように正確な情報が必要である。

4. セクシュアル・マイノリティが援助要請行動のプロセスで体験するセクシュアル・スティグマに関する探索的調査

岩垣千早

奈良女子大学大学院人間文化研究科

【問題と目的】 同性愛者に代表されるセクシュアル・マイノリティはうつなどの精神的不調に陥りやすいことが明らかにされつつある。一方で、精神的な不調を抱えた当事者の援助要請行動は、様々な要因によって抑制されている可能性が示唆されている。その1つとして、当事者が知覚あるいは内在化した、社会に存在するセクシュアル・マイノリティへの偏見や差別・嫌悪感情（セクシュアル・スティグマ）が挙げられている。しかしながら、精神的な不調を経験したセクシュアル・マイノリティの視点にたつて、彼らがどのようにセクシュアル・スティグマによる抑制を体験しているのかを実証的に扱った研究は極めて少ない。本研究は、当事者へのインタビューから、精神的な不調を自覚し、援助要請行動を考え、実際に行動に移すというプロセスにおいて、知覚あるいは内在化されたセクシュアル・スティグマ（以下、P/ISS とする）がどのように関連しているのかを明らかにすることを目的とした。

【方法】 過去に精神的な不調を経験したセクシュアル・マイノリティ当事者 10 名に半構造化面接を実施。得られたデータをグラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した。

【結果と考察】 援助要請行動のプロセスに、「非異性愛は世間的に異端である」「自分でも非異性愛者であることは認められない」、そのために「援助要請行動をとらない」、という P/ISS の直接的影響が見出された。他方で、当事者はプロセスの中で、「セクシュアリティ開示へのこだわり」「説明しづらい」「話せない」という3つの感情による葛藤を経験するが、この葛藤は、「自己とセクシュアリティ」が統合されていないことに起因していた。そして、この統合に P/ISS が影響を及ぼしているという関連性が見いだされた。以上より、精神的な不調を自覚したセクシュアル・マイノリティは、援助要請行動のプロセスにおいて、P/ISS の影響を、直接的・間接的に体験している可能性が考えられた。

5. 女性性を商品とする市場に携わる男性の、 男性性を健全に保ち続ける方法

長谷部裕佳

立川相互病院 産婦人科

【緒言】女性性を商品とする市場の一つがキャバクラである。キャバクラの男性客の中にはキャバクラ嬢と疑似恋愛をする事を堪能する客もいる。その中でも、疑似恋愛というキャバクラの枠を越え現実世界で現実的恋愛へ移行を求める客もいる。というのは知れた内容だ。そのような世界で、そのようなビジネス管理をする、男性客よりキャバクラ嬢に近い存在である黒服は、商品である女性性に携わる仕事の前後で男女の性について、どう考えや思いの変化があったか、そして、どのように自身の男性性を管理しているのか、調査した。

【対象・方法】キャバクラ A 店に勤める黒服のうち、1 年以上の勤務であり、調査協力に同意頂いた 3 名に記述式アンケート調査。1 年以内の勤務であり、聞き取り形式での調査協力に同意頂いた 1 名に聞き取り調査を行った。よって、対象者は計 4 名。

【結果】黒服の仕事を行うきっかけによって、キャバクラ嬢の女性性への見方の変化は異なった。黒服の仕事のうち、一番嬉しい事は、担当嬢が売上をあげた時や指名を得た時。一番辛い事は、客とのトラブルへの対応であった。黒服は、キャバクラ嬢に対する個若しくは社会の‘偏見’に対し敏感であり、個と個は常に対等な存在であることを意識している。よって、客とのトラブルへの対応内容が女性性の価値観によるものの時が最も辛い、と回答する。職場内で恋愛・結婚した黒服の場合も、対象は体入の女の子であり、キャバクラ嬢はあくまでもビジネスパートナーである、というのが 1 年以上勤務の黒服において全員一致の回答であった。

【考察】黒服は、キャバクラ嬢一人一人の個性と人権の尊重を基盤に地道な仕事を日々行っている結果、黒服にとってキャバクラ嬢とは、任されている市場におけるマネジメントの対象であり、‘仕事上のビジネスパートナー’である、という考えに至った。その意識を保ち続けることが、公私を分別し男性性を健全に保ち続けられている方法であると考えられる。

一般演題Ⅱ

座長 関口由紀

LUNA 骨盤底トータルサポートクリニック

6. 小児期の肛門外傷が発端と考えられる性交疼痛症の一例

渋谷伸一¹⁾、今井 伸²⁾

¹⁾ 聖隷浜松病院不妊内分泌科、²⁾ 聖隷浜松病院泌尿器科

【緒言】性交疼痛は原因によらず性交時の疼痛を繰り返す女性性機能障害の一つである。性交疼痛の原因として外陰部の炎症、子宮内膜症、尿道憩室または骨盤や腔の手術歴などのほか、虐待の既往や、精神的ストレスによる性交疼痛への影響も考えられている。今回、4歳頃に受けた事故による肛門裂傷により数回の外科的手術を受けたが、成人後に性交痛が認められた女性に対し、性交疼痛の治療を行ったので経過を報告する。

【症例】症例は当院産婦人科受診時 33 歳の未婚女性。不正出血にて前医受診し、子宮内膜ポリープを指摘され、治療のために当院紹介された。診察時の問診にて性交痛を訴えていたが、性交は可能であり、その時点ではポリープについての治療方針を相談した。ポリープは小さく、その後出血ないため経過観察となった。初診 6 か月後に結婚され、妊娠希望されたため、不妊科に紹介となった。不妊科受診時の診察にて内診の痛みと性交痛及び性交時の出血の訴えがあった。診察では会陰部・腔壁に炎症なく、腔入口部がやや固い印象を受けるが瘢痕は認めない。腔ダイレータの使用と、挿入までの時間を長くすることを提案した。その後、腔の拡張を継続したところ徐々に痛みは減少した。通院中不正出血あり、全身麻酔下に子宮鏡下ポリープ切除を行った。さらに麻酔時に腔の伸展性を確認した。腔壁は十分に伸展し、硬結などはなく、肛門の手術の影響はないと思われた。手術後の外来で、自ら外陰部を観察してもらうようにしたところ、以前は触れるとただれてヒリヒリ痛い部分が気になっていたが、観察後は乾燥感と軽度の痛みのみとなり、挿入後の痛みは VAS で治療開始時 9/10 から 2/10 に軽減した。現在不妊治療中である。

【考察】当初は小児期の外傷後の瘢痕による疼痛が考えられたが、診察、面談を通して、心理的側面が大きく関与しているように感じられ、外陰部を自ら観察し、外陰部のイメージが変わることで痛みが減少したように思われた。

7. 高密度焦点式超音波（HIFU）とフラクショナル炭酸ガスレーザー（FCO2L）の膣壁照射の使いわけに関する検討

関口由紀¹⁾、中村綾子¹⁾、前田佳子¹⁾、榎本香織¹⁾、藤崎章子¹⁾、
槍沢ゆかり²⁾、二宮典子³⁾、大林美貴³⁾、矢尾正祐⁴⁾

¹⁾LUNA 骨盤底トータルサポートクリニック、²⁾ 横浜元町女性医療クリニック LUNA、
³⁾ 女性医療クリニック LUNA 心斎橋、⁴⁾ 横浜市立大学大学院医学部泌尿器病態学講座

（はじめに）高密度焦点式超音波（HIFU）の膣壁照射は、粘膜下から筋層までに熱による刺激を与えることによって膣の弾力性を強化し膣内のゆるみを改善するとされる。一方フラクショナル炭酸ガスレーザー（FCO2L）の膣壁照射は、主に膣粘膜と粘膜下層に熱刺激を与えることによって、膣粘膜の再生と粘膜下層のコラーゲンの増生を促すとされる。今回はこの2つの施術の使い分けに関して考察する。

（方法）6名の被験者に対し、HIFUの膣内照射を行った。照射は、3種類のカートリッジを用いて、膣を2分割して、全周性にHIFUの照射を行った。一方10名の被験者に対して膣全長にわたり1か月間隔で2回、FCO2Lの膣壁照射を行った。参加者は施術14日後、1、3、6ヶ月後の追跡調査を行った。主要安全性評価は、有害事象の発症の報告で行った。二次的有効性項目としては、尿漏れアンケート、FSFI（女性性機能評価）、FSDS-R（女性性的苦痛評価）、膣のゆるみ評価表の各合計点の変化率とした。本研究は、女性医療クリニックLUNAグループ倫理委員会承認を得た。

（結果）HIFUもFCO2Lも、施術中に痛みや違和感を訴える患者がいたが、全員安全に施術を施行できた。HIFU施術後3ヶ月の評価では、締め感の増加、下垂感の軽減、頻尿の軽減などを確認できた。FCO2L施術後3～6ヶ月の時点では、膣健康指数と尿失禁の症状の改善を認めた。

（考察）HIFUに関しては膣締め感、FCO2Lに関しては膣萎縮症状をターゲットに治療を選択すればよいことが示唆された。

8. 骨盤臓器脱手術患者の術前性機能に関連する因子 若年・高齢患者それぞれの検討

藤崎章子、稲葉美佐、本田周子、金城真実、嘉村康邦

四谷メディカルキューブ 泌尿器科

【目的】骨盤臓器脱（POP）手術術前の性行為に関連する因子について、若年と高齢にわけて検討する。

【方法】当院でPOP手術を行い術前に prolapse quality of life questionnaire (P-QOL) 暫定版の記載が得られた100例のうち、Female Sexual Function Index(FSFI)日本語版の記載が得られた68例を対象とした。FSFIの回答による性行為の有無と各種因子の関連を検討し、問診結果を転記した。64歳を若年、65歳以上を高齢とした。

【結果】P-QOL問診票が得られた100例のFSFI問診票の回収率は68%だった。回収できなかった32%は問診でほとんどの患者で性行為はないと確認した。FSFIが得られた68例で、高齢患者は若年患者と比し、性行為やパートナーの有無、POPの重症度に有意差は認めなかった。若年患者では性行為に有意に関連する因子は認められなかった。高齢患者ではパートナーの有無やPOPの重症度では関連は認めなかったが、高齢で性行為有群は女性主治医が多く、POPにより疲れや睡眠への影響を感じやすく、POPによりパートナーとの関係に影響を感じ、POPによる性生活への影響を感じるという結果が得られた。問診より高齢で性行為有の患者では自身の性欲はないがパートナーからの求めに応じ性交しているという回答が若年より目立った。

【考察】若年と高齢で性行為との関連因子に違いを認めた。高齢で性行為がある患者は、交絡関係は定かではないが、女性医師の診察を希望する可能性、POPがパートナーとの関係と性生活に影響を与え、さらには疲れに影響している可能性が示唆された。性行為に関する分かりやすい因子は明らかにならず、医療者側が年齢やパートナーの有無のみで性行為の有無を推測することは避けるべきと考えられた。

9. 女性ファッション誌『an・an』から紐解く 20-30 代の日本人女性のマスターベーション

奥村敬子、金田淑枝、武田宗万、中野洋二郎

公立陶生病院

1970 年創刊の女性ファッション誌『an・an』は、ファッション・メイク・恋愛・ダイエット・インテリア・占いなど、20 代から 30 代前半の女性が興味を持つことを取り上げる「雑食系」総合週刊誌である。1988 年から不定期にセックス特集号も組まれている。

現在、日本人女性のマスターベーションについて経時的な調査はほとんどない。

そのため、『an・an』のセックス特集号から、マスターベーションに関するデータを抽出して分析した。

1989 年～2000 年まではマスターベーションをすると回答する女性は 40-64%であったが、2003 年～2010 年では 57-89%、2011 年～2014 年では 86-95%と上昇傾向を示した。当初は「マスターベーション」と表記され、マスターベーションに罪悪感・後ろめたさを感じている人が多くいたが、2006 年から「ひとり H」という親しみやすい表現が使用されるようになり、2014 年には「ひとり H を一言で言い表すと？」という質問に対し、「リラックス」が上位を占める結果であった。

また 2007 年「どういうときにひとり H したくなる？」という質問に「5 位;暇なとき」が入ってきていることも、マスターベーションが日本の若年女性にとって一般的なものに変化していることを示している。

初めてマスターベーションをした年齢は 10 代半ば（2014 年のデータでは平均 14.1 歳）が多く、1995 年から大きな変化はなかった。

そして、マスターベーションで刺激する部位はクリトリスが不動の 1 位であった。

これらのデータは回答者数が不明なものや、雑誌の読者を対象にアンケートを行っているというバイアスはあるが、日本の若年女性の性機能を経時的に見るうえで一助となると考える。

10. レズビアン・バイセクシュアル女性である患者と医療者のペア6事例の質的分析

藤井ひろみ

神戸市看護大学

【目的】本研究の目的は、レズビアン・バイセクシュアル女性である患者にとって、快適な医療者との相互関係モデルを明らかにすることである。

【方法】研究対象者は、治療関係に肯定的評価を持つレズビアン・バイセクシュアル女性と、その受け持ち医師または看護師の患者／医療者ペアである。研究方法は、患者／医療者ペアそれぞれに半構造化インタビューをおこない、内容の逐語録をデータとして、ペア双方の語りを比較して事例分析をおこなった。聞き取り調査期間は2007年11月～2011年4月であった。尚本研究は、研究者が所属する倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】分析対象としたのは、患者／医療者ペア6事例であった。婦人科・内科・眼科・精神科・総合診療科における事例で、医師とのペアは4事例、看護師とのペアは2事例であった。計6事例の分析の結果、レズビアン・バイセクシュアル女性である患者と医療者が良好な治療関係を構築する鍵となっていたのは、①同性パートナーの尊重、②カミング・アウトを要しない問診、③患者／医療者が（上から目線でも下にも立たない）同じ目線に立つといった医療者のコミュニケーションスキルであった。

【結論】これら3条件を満たす場合、レズビアン女性がカミング・アウトしておらず、医療者にとって患者の性指向が不明であっても、レズビアン・バイセクシュアル女性である患者と医療者の良好な関係が成立し得ることが、示唆された。

一般演題Ⅲ

座長 白井雅人

順天堂大学医学部附属浦安病院泌尿器科

1 1. ワセリン注入による陰茎硬化性脂肪肉芽腫 6 例の臨床的検討

内田洋介¹⁾、中川昌之²⁾

1) 今村病院泌尿器科、2) 鹿児島大学泌尿器科

陰茎増大を目的としてワセリンなどの液状油脂を注入し肉芽形成や壊死を起こす症例は比較的少ない疾患ではあるが、それ故治療に難渋する場合も多い。

注入から年数がたつと組織が肥厚、硬化し包皮の反転が不可能となり、排尿や清潔保持に支障を来す。

我々は1998年10月から2014年8月までの16年間に6例のワセリン注入による陰茎硬化性脂肪肉芽腫を経験した。これらの症例に臨床的検討を加えた。

受診時年齢は34歳から59歳まで、注入から受診までの年数は3年から20年と幅があった。治療は異物のみの摘出が3例、皮膚と肉芽を含めた切除が2例、遊離皮弁移植が1例であった。合併症は皮膚壊死、血腫形成などであった。

12. 助産師と部活顧問のコラボレーション「生と性健康教育」

山崎真子

松田ウイメンズクリニック

【目的】

私は5年前から性教育講話活動を実施している。

講話前・後のアンケート結果から講話後には知識・意識は高まるものの、翌年実施前には知識は低下し実施後には知識・意識ともに前年度以上に高まることから、常々継続した性教育の必要性を感じていた。

今回とある中学校の女子バスケット部の顧問（養護教諭）から、「自分の命や体のこと、友だちとの関係性やコミュニケーションを作り育むことを目的とした性教育ができないものか…」との提案があり、二人三脚で生と性健康教育を行ったので報告する。

【対象者・方法】

対象者：中学校の女子バスケット部員 2年生8名 1年生9名

方法：5回シリーズ（ひと月に1回 土・日の部活動後に1時間程度実施）

事前に顧問が部員各々の自尊感情を把握（SOBA-SET）し、個々の背景・特徴をまとめた一覧表を作成した。その情報をもとに講話内容を顧問とともに検討し、毎回実施後に生徒の反応から次回の内容について再検討し理解を深められるよう努め丁寧に行った。

【結果・考察】

アンケートの結果から性知識・意識ともにかなり高まったことがわかった。

また、自分のいいところ・他者からみた自分のいいところを知ることにより自尊感情も高まり、自己理解・他者理解にもつながり、関係性・コミュニケーション作りにも役立つことができた。

生徒個人の背景・特徴・関係性をよく理解している顧問と二人三脚で講話の内容を検討することでより生徒の現状に即した性教育を提供することが可能となった。また、継続して行うということは、生徒の理解力に合わせ繰り返し伝えることが可能となり、生徒自ら「生と性健康教育」の必要性を実感し理解しようとする意欲も深まると考えられる。

13. 日本におけるセクシュアルマイノリティに関する 性教育の実態調査

岩田歩子

京都大学大学院医学研究科

I 研究目的

本研究の目的は、マイノリティの持つ経験と生きづらさを明らかにし、当事者のニーズに沿った性教育の示唆を得ることである。

II 方法

2015年11月～12月、20歳以上40歳未満の同意を得られたマイノリティ5名に半構造化面接を行い、KJ法に準じた方法で質的記述的に分析した。データ収集内容は①年齢②性自認③性指向④最終学歴⑤学校で性教育を受けた時に感じたこと⑥学校での性教育以外で獲得した性に関する情報と、その時に感じた生きづらさ⑦当事者として学校の性教育の中で知りたかったこと⑧学校で性教育を行うことについてどう考えるかの8項目とした。本研究は千葉大学大学院看護学研究科倫理審査委員会の承認を得た。

III 結果

全員が学習指導要領に沿った性教育を受けていたが、マイノリティに関する教育の有無で性教育に対して持つ感情に差があった。学校以外でのマイノリティに関する情報の入手方法には学歴・地域差が現れた。マイノリティの持つ経験と生きづらさについては「マイノリティを含む包括的な性教育の不足により、理解されにくさを感じている」「マイノリティに関する情報を含むネットワークの不足」等、学校での性教育に対する当事者のニーズについては「ラポールの形成のために日常から理解があることを示す」等が明らかになった。

IV 考察

杉山(2006)は同性愛の高校生は異性愛中心・同性愛嫌悪の学校に所属することで5つの困難に直面すると述べているが、本研究も先行研究を踏襲する形となった。しかし、安心感のあるコミュニティに所属することや社会の寛容度の変化によってマイノリティを肯定的に捉えることができていたことが示唆された。また、マイノリティを支援する一員として養護教諭が大きく期待される結果となった。

1 4. 医学部性医学教育における性機能学会非会員の現状に関する検討

白井雅人¹⁾、辻村 晃¹⁾、AmrAbde lhamed²⁾、堀江重郎²⁾

¹⁾ 順天堂大学医学部附属浦安病院泌尿器科

²⁾ 順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学

【目的】全国 80 大学医学部の泌尿器科教室に郵送にて、性医学教育に関するアンケート調査を行った。その中で、泌尿器科主任教授の性機能学会での役職が非会員である 49 大学を選択し、性医学教育の現状に関しての検討を行った。

【方法】各施設の講義時間、講義内容項目数、講義時間満足度、講義内容満足度の検討を行った。

【結果】回答は 40 施設 (81.6%) から回収した。講義時間は平均 95.9 分であった。講義内容項目数は平均 7.3 項目であった。講義時間と講義項目数の相関は認められなかった。現状の講義時間については、多すぎる、多いはそれぞれ 0% であり、ちょうど良い 46.2%、少ない 48.7%、少なすぎる 5.1% であった。講義内容については、とても充実している 0%、充実している 28.3%、どちらかと言えば不十分 53.8%、不十分 17.9% であった。講義時間と講義時間満足度、講義項目数と講義内容満足度に関しては有意な差を認めなかった。

【考察】性機能学会非会員の特徴としては、講義項目数、講義時間ともに低く、満足度も低いものであった。十分な時間が確保できない大学にとって、標準化された講義資料の作成及び活用が必要と考えられた。

15. 若者の性教育の中で、性感染症予防教育はどこまで成果を 上げているであろうか？

—無症候性クラミジア性感染症の大流行の現況を憂える—

熊本悦明¹⁾、北村唯一²⁾、木下勝之³⁾

¹⁾ 性の健康医学財団 名誉会頭、²⁾ 性の健康医学財団 理事長、³⁾ 日本産婦人科医会 会長

我が国における性感染症の大流行をいかに鎮火させるか大きな問題点であるが、最近の性感染症動向調査では、有症の性感染症の流行は鎮火傾向を示し、望まざる妊娠の人工妊娠中絶も減少しつつあり、全国的に性教育の取り組みが成果をあげつつあるかの如き理解が広まっている。しかし我々は、無症候性クラミジア感染症流行は未だに減退していないのではと言う臨床経験を確かめるべく、2013年から妊娠検診時のクラミジア感染検査が公費負担となり、そのスクリーニング調査が可能になった機会に、無症候性のクラミジア性感染症の実態調査を実施した。

2013年10月より2014年3月までの約50万人妊婦のうち、そのほぼ3分の1に当たる32万5千人の無自覚クラミジア感染症罹患率調査を、日本臨床産婦人科医会の協力の下で実施し得た。結果は平均感染率2.4%（42人に1人）であり、19才以下、15.3%（6.4人に1人）、20～24才7.3%（14人に1人）、25～29才2.2%（46人に1人）、30～34才1.2%（88人に1人）、35～39才0.8%（128人に1人）、40才以上0.9%（110人に1人）、が感染していることが明らかになった。この所見は、有症例中心に調査されている国の性感染症動向調査成績とは異なり、いまだに無症候性の性感染症の大流行が我が国には潜在していることを明らかにしている。しかもこの所見を欧米での妊婦調査報告と比較すると、かなり高い感染率となっている。

クラミジア感染は不妊症発症の大きな原因でもあり、この妊婦の感染率の裏には、さらに不妊となり、この統計に出てこない症例群も少なくないと推定される。この調査成績は少子化時代の極めて重大な問題を示唆していると云える。若い人々への性教育のあり方に警鐘を鳴らす深刻な調査成績であるといえる。現在の若い人々における無症候性の性感染症の予防意識を高める啓蒙・指導が極めて重要であるといって過言ではない。

ご協力いただきました団体・企業一覧

(順不同 敬省略 出展・広告掲載企業も含む)

長野市医師会

日本新薬株式会社

ジェクス株式会社

アステラス製薬株式会社

株式会社ツムラ

武田薬品工業株式会社

株式会社 TENGA

大東製薬工業株式会社

株式会社キースマック

ヤンセンファーマ株式会社

ノバルティスファーマ株式会社

アストラゼネカ株式会社

グラクソ・スミスクライン株式会社

サノフィ株式会社

バイエル薬品株式会社

旭化成ファーマ株式会社

あすか製薬株式会社

キッセイ薬品工業株式会社

2016 年 8 月現在

ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

日本性科学会雑誌（第 34 巻 2 号）

平成 28 年 9 月発行

発行責任者：日本性科学会理事長大川玲子

学会事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷 3-2-3 森島ビル 4F

編集責任者：第 36 回日本性科学会会長 天野俊康

大会事務局：〒380-8582 長野県長野市若里 5-22-1 長野赤十字病院泌尿器科

担当：天野俊康、今尾哲也、岸蔭貴裕

事務：渡辺素子、寺澤靖代

印 刷：株式会社 アイ・プランニング

〒381-0034 長野県長野市高田守田沖 460-11
